

学校評価シート（自己評価）

十文字女子大附属幼稚園

1、園の教育目標

本園は、お子さんの初めての集団生活の場として、幼児にとって遊びは学び、人としての基本の全てを自由な遊びを大切にする幼稚園生活の中で身に付けるように教育します。保育者はご家庭と連携し、園児の個性、育ちを受け入れ、深く関わり適切な援助をして、信頼関係を築く事を第一にします。幼児は自然豊かな環境の中で大好きな先生と友達と関わり、自分の思いを充分出せ、自らいろいろ考え行動し思い切り友達と遊ぶ事はとても大切です。又、時間を決めて一斉に教えるのではなく、自分の興味のある遊びを一杯する中に、運動力、文字の読み書き、絵を描く工作をする、唄う等々の力がつきます。その為には保育者は子ども同志が円滑に関われるように丁寧に援助を重ね仲立ちし、必要な教材道具を適格に用意し、共に遊び、成長を促せるように心と体を目いっぱい使って携わります。

2、具体的な目標や計画

1、教育・保育活動を充実させる

（保育者自身の向上、協力して全力で保育にあたる人間関係・環境を整え外部への情報発信と共に外部からの意見聴取の機会を設ける）

2、保護者との連携を推進する

（保護者が園と関わる機会を増やし、保護者の生活形態の変化に対応し、保護者の育児の向上に繋がる情報を提供する）

3、地域との連携を推進する

（近隣の様々な関係者との連携・連帯を深める）

3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
講習・講演・参観等に参加した職員が、職員会議等でその内容を周知する。	B	産休等を取得した職員がでたことなどもあり、他園の参観や講演会へ参加する機会がなかなか持てなかった。ただし、参加をしてきた教員が受けてきた研修の内容や情報を職員間で共有することで研修の効果は得られた。

職員会議や保育後の職員室での時間を有意義に使い、担任がクラスの園児の個々の留意点を伝えたり、担任外の職員がその日に関わった園児について担任と相互に意見を交換したりすることで共通認識を深め、職員間の風通しを良くするとともに、一人ひとりの園児の成長に繋げる。	A	担任に関わらず教職員同士で、園児の様子について情報交換をしてコミュニケーションを図り、園児への適切な対応に繋げることができた。
ブログ「たートルだより」の内容を工夫し、外部の方々に本園の保育をより理解していただく。	B	普段の保育を大切にした上で、園児が生き生きと遊んでいる様子を随時撮影。撮影した写真を多く使い、その時の様子(文書表現)も、わかりやすく書いてブログへ掲載した。その結果、本園に関心を持つ方はとても増えた。これからは内容面の質を高めて、保護者の方に保育の理解をしていただくように努めていきたい。
自己評価を実施し、公表する。	B	自己評価は実施済みであり、ホームページで公表をする予定。
2017年度に実施した外部評価を公表する。	B	2016年度分に引き続き、2017年度分についても外部評価を実施した。ホームページで公表をする予定。
父母会定例会などに園長が出席し、保護者の要望等を聞く。	C	父母会定例会を開催していたが、園長が出席できる時間が取れなかった。ただし、話し合った内容を父母会より園長へ伝えてもらい、園の方針に反映するようにした。
おるすばん保育の「きりん組」について、4月の中帰りから始める。また、誕生会の日は午前中から「きりん組」を実施する。	A	保護者からの要望に答え、4月から「きりん組」を実施し、毎月の誕生会の日も実施をした。
参加者の幼稚園理解と、育児の向上を目的とした幼児教育の経験者や十文字学園女子大学幼児教育学科の教員等による講演「はらっぱ」(全5回)を、外部の方だけではなく、園児の保護者参加を促す。	C	2018年度の「はらっぱ」は在園児の保護者にも聴いていただきたい内容で構成し、声かけを行ったが、全5回の内、在園児の保護者の参加が少ない回もあった。
日時を決めて、園長・主事が保護者の相談を受け、解決出来ない問題については、十文字学園女子大学の教員等に繋げる。	B	日時を決めての相談は出来なかったが、保護者から園長や主事への直接の相談はあった。相談内容のいくつかは、大学の教員へ直接伝える(繋げる)ことができ、解決することができた。

十文字学園各校の実習生に加え、市内の中学生の実習等を出る限り受け入れる。	A	申し出があった実習等については受け入れを行った
幼小連携の観点から、積極的に小学校との交流をし、園児がスムーズに小学校生活に入れるようにする。	A	野火止小学校と年2～3回交流することで、年長組園児は小学校生活を想像することができ、スムーズに入ることができた。
他園の保育者からの参観申し込みを出来るだけ受け入れる。	A	他園の保育者からの参観申し込みはあった。引き続き、申し入れがあれば受け入れる。

4、具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	概ね計画は達成されていると評価できる。 達成できていなかった課題については、引き続き取り組んでいく。

○結果(※)について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教職員の仕事を 見直し、園児の 為に必要な仕事 を重視し、充実 する為に省ける 仕事は省く。	①2019年からは前年度より経験して戴き、朝バス添乗を臨時職員にお願いした。 職員の朝の負担を軽減し、教職員がその力を子どもと沢山遊ぶ事にまわし、その中で無理なく大切な事を伝える。又、家庭との連絡や園児の記録の作成に更に時間をかける等園児のより良い成長に繋げる。 ②今まで年少児・年中児は、食事の際にお盆を使い、教員が毎日のお盆洗いに時間と手間を取られていたが、年長児と同じように自宅から布製のランチオンマット(35cm×25cm)を持参してもらい、お盆を使用しないようにする。
子ども達を取り 巻く環境と遊び の充実。	①「子どものまわりにある全てのものは環境」という考えのもと、 ・クラス内の机・椅子の配置は適切か ・ホールや園庭に適する遊具は何か を見直す。 ②子ども達が使用しているおもちゃを見直し、遊びの幅を広げるために充実させる。 ・おもちゃの量(適切な数かどうか) ・おもちゃの質(扱いやすい素材か) ・おもちゃの形(大きさはどうか)

学校評価シート（学校関係者評価）

十文字女子大附属幼稚園 学校関係者評価委員会

日時 令和元年5月20日（月）

10:20～11:30

出席者 評価委員（外部・保護者）4人

評価委員（大学職員より）2人

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

計画通り進捗が出来ていた

2. 評価結果の内容は適切であったか

厳しい評価もあったが、概ね適切であった

3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

園の教育目標にもある「遊びから学ぶ」に沿った課題なので、無理なく取り組めると考えられる

4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

適切に行われるよう教職員で協力して取り組んでほしい